

## アグリラテール大黒プラン

高収益作物を導入し、経営の安定化を図りたい

倉吉市  
株式会社 アグリラテール大黒

## 1. 会社設立の経過、目的

近年、遊休農地、荒廃農地が年々増加している中、農業就農者は減少の一途をたどっており、その解決策が課題となっていました。そんな中、JA 出資型農業生産法人を新たに設立し、倉吉市管内の畑地を中心とした遊休農地の解消を目的とし、効率的かつ安定的に農業経営の実現及び農用地の利用集積を図るとともに地域農業の担い手（経営者）として育成していくことを目的とし設立しました。現在では新規就農者（研修生）育成の場としての機能も発揮しています。 会社設立：平成21年7月17日

## 2. これまでの事業の実績等

### 1) 遊休農地再生

	H 2 1 年	H 2 2 年	H 2 3	H 2 4	計
再生面積 (a)	0	112.5	14	0	126.5

### 2) 農地の賃貸借（大黒所有の土地なし）

	H 2 1 年	H 2 2 年	H 2 3 年	H 2 4 年	H 2 5 年 計画	H 2 6 年 計画
圃場面積 (a)	6 4 7	8 1 7	1, 1 1 2	8 6 9	9 1 9	9 6 9
地主数 (人)	2 3	3 0	3 4	2 7	2 8	2 9
圃場区画数	2 8	3 6	4 1	3 1	3 2	3 3
小作料総額 (円)	230,969	360,905	471,066	333,307	413,550	436,050
10a 当たり小作料 (円)	3,570	4,417	4,198	3,835	4,500	4,500

最小区画面積 3 a、最大区画面積 6 0 a（H 2 3 実績平均：2 7 a）



#### 地域の方の意見

地主さん : 特に田舎では知らない人に先祖代々から守ってきた農地を貸すのには抵抗があったが、大黒 (JA) なら安心して任せられる。

近隣地の方 : 草が生い茂り、害虫の住処となっていたのでこれで安心して隣で作物を作ることができる。交差点付近の高草がじゃまをして視界が見えず事故を心配していたが、管理してもらえることで視界が良くなった。

#### 地域活動への参加

久米ヶ原では集落ごとに年2回景観維持のため草刈り作業を実施しています。大黒でもその共同作業に参加しています。

#### 3) 定植面積、販売高の推移

	H 2 1 年	H 2 2 年	H 2 3 年	H 2 4 年
定植面積 (a)	5 9 1	8 7 2	9 1 6	8 4 0
販売高 (千円)	6,655	28,027	40,753	計画 67,497

\*販売高は当期年度内での実績 (決算期間: 2/1~1/31)

#### 4) 社員・研修生数の推移

	H 2 1 年	H 2 2 年	H 2 3 年	H 2 4 年	H 2 5 年 計画	H 2 6 年 計画
社 員 (人)	6	6	6	6	5	5
研修生 (人)	0	2	1	4	1	1

#### 社員の意見

- ・人間関係が苦手な農業分野の仕事に就きたかった。
- ・夏場の高温、冬場の底冷え等大変だが、自分が手がけた作物が成長し収穫できる喜びがあるから続けられる。
- ・人間の手ではどうしようもない自然の力を身をもって思い知らされた。苦勞して作った作物が一瞬でダメになる光景はすさまじく脳裏から離れない。
- ・毎年違う気象条件の中、同じ物は作れない。
- ・こんなにも農業経営が厳しいものとは思わなかった。独立就農の難しさを知った。
- ・冬場の積雪により外での作業が出来ず休んでばかりでは生活していけない。

研修生の就農状況、今後の就農予定

年度	人数	就農状況（予定）
H 2 2 年	2 名	1 名は久米ヶ原で息子と白ネギ・ハウストマト栽培（独立就農にあたり地主との土地交渉及びハウス設置許可の支援を行う）
H 2 3 年	1 名	白ネギ栽培開始、アスパラ栽培に向け準備中
H 2 4 年	4 名	現在研修中

卒業研修生とは大黒を離れてからも情報交換の場を定期的に設けています。

3. 現状

気象に左右されやすい露地野菜中心（白ネギ、キャベツ、ブロッコリー、トンネル西瓜、にんにく）のため収益が不安定となっています。近年ではH 2 2 年豪雪、H 2 3 年夏期の異常高温、H 2 4 年始豪雪・春の強風により収量激減・品質低下が発生しています。また、栽培圃場は遊休農地であったため不良な圃場条件（変形圃場、排水不良、日照不足、小区画）、灌漑設備未設置の圃場であり、また、社員・研修生は新規就農希望者のため栽培管理技術の習得中であり労働時間が増加しています。現状では独立就農に対する意欲の低下、遊休農地・耕作放棄地解消が出来なくなることを危惧しています。

社の設立目的を達成するためには、高収益作物を導入し収益の安定化を図り、社員の新規就農への意欲向上、中部地区の遊休農地解消を進めることとしました。

4. 目標

- ①ハウスの導入と有効活用により社員の年間作業（労力分散）、気象災害に強い栽培体系の確立
- ②スイカ・ねばりっこ（高収益品目）を2本柱とし経営の安定化
- ③白ネギは年内収穫比率を上げ高品質で収量の確保
- ④栽培技術の向上と新規就農者育成
- ⑤経営の安定化により畑作経営モデルとしての情報発信と雇用創出

独立新規就農者数

H 2 2 年	H 2 3 年	H 2 4 年	H 2 5 年	H 2 6 年	H 2 7 年
1 名	1 名	0	1 名	1 名	1 名

今後の定植計画

作付け（単位：a）

		H 2 4 年	H 2 5 年	H 2 6 年
スイカ	ハウス	0	18	30
	トンネル	230	212	200
青梗菜		0	36	60
ねばりっこ		30	60	100
白ネギ（秋冬）		120	70	30
キャベツ		330	130	100
ブロッコリー		100	0	0
にんにく		10	0	0
アスパラガス		20	10	10
白ネギ土作り		29	30	30
スイカ土作り		0	100	100
緑肥作付け		0	253 (独立新規就農者への 農地斡旋用含む)	289 (独立新規就農者への 農地斡旋用含む)
大豆				20
合 計		869	919	969

## 5. 課題と対応策と効果

課題	品 目	対 応 策	効 果
労力集中	スイカ	ハウス+トンネル	早い段階から準備が出来き労力分散が可能
	ねばりっこ	面積拡大	収穫期間が長く収穫労力分散が可能 砂丘地の遊休農地解消
	青梗菜	ハウススイカ後作	冬場のハウス内作業により労力の平準化
価	スイカ	早い作型の導入	早い作は競合産地が少ないため有利販売
	青梗菜	ハウススイカ後作	栽培期間が短く回転させる事で価格変動への対応が可能
格	キャベツ ブロッコリー にんにく	ねばりっこへの転換	貯蔵技術が確立されており計画出荷販売により価格安定が見込める
	白ネギ	年内中心出荷	雪害への危険度が減り高品質・収量の確保
独立就農者	経営力の養成	資金管理の習得 収支計画分析の習得 労働力管理の習得	経営者としての視点を養成できる
農地の有効利用	緑肥	菜種、コブトリソウ等	有機物、有害線虫抑制、防風
	土作り	未熟堆肥投入 耕耘	微生物の活性化 草の密度低下
	大豆	機械化	面積拡大、有機物

### ①スイカ

露地トンネル栽培1作型から、ハウス+露地トンネル栽培の2作型にすることで作業分散を図ります。価格についてもハウスは安定していますし、長期栽培による労力分散、経営の安定化に繋がっていきます。

### ②スイカの後作（ハウス）

ハウススイカの後作として生産原価の低い葉物野菜（青梗菜）を栽培しハウスを回転させることにより長期出荷を可能とし価格変動を吸収させます。栽培期間が短いいため今後の軌道修正が可能となります。鳥取県のみならず世界的に起きている異常気象を少しでも回避できるよう露地野菜の比率を減らしハウスでの栽培に転換していきます。

### ③ねばりっこ

子芋の育成を久米ヶ原（黒ぼく土壌）で1年行いましたが、堀取りに多くの労力を費やしました。砂丘地品目として発展してきたその意味を実感したところです。

ねばりっこを収穫するまでには2年間の歳月を要します。むかごから子芋へ育成するのに1年間。その子芋を掘り起こし、また別圃場へ定植しその秋にやっと収穫を迎えます。砂丘地ならではの品目の特徴としてその他の野菜と大きく違う点があります。それは収穫適期が長い点と冷蔵庫での貯蔵保存が出来る点です。収穫適期が長ければ労力の分散を図れますし、収穫機械の導入（2台）により面積拡大が可能となります。貯蔵保存の最大の強みは計画出荷が可能となり市場価格に左右されにくい点です。現在ではねばりっこの注文に対し生産が追いつかない、また直売比率が約5割と極めて高い点です。価格安定と労力分散が見込める品目として面積拡大を図っていきます。



### ④白ネギ

近年の豪雪、大雪により1月～3月出荷の品質低下、収量減が顕著となってきています。年内中心出荷の比率を上げ高品質、収量確保へ努めていきます。

### ⑤独立就農者

独立就農者への農地の斡旋、雇用紹介、交流など農作業以外の支援にも取り組みます。

### ⑥緑肥

有機物の補給だけでなく、線虫抑制、防風など様々な効果が期待でき地力増進となります。また土壌消毒剤を使用しないので環境にやさしい取組みが実践できます。

### ⑦土作り

安価な未熟堆肥を投入し、長期間土と混ぜ合わせ発酵させることにより微生物の活性化を促進し、連作に弱い、極実スイカ・白ネギの栽培を可能とします。長い期間をかけた耕耘することにより草の密度を低下させることができます。

### ⑧大豆

機械化体系がすでに確立されているため、少ない労力で面積拡大が可能となります。また有機物としての効果も期待できます。

ねばりっこ栽培体系、販売期間

	H 2 5												H 2 6					
	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月				
育成圃場 (むかご→子芋)			○	—————									△	~~~~~	△			
本圃 (子芋→製芋)			●	—————								×	~~~~~	~~~~~	×			
販売期間 (1年間)													▲	-----	▲			
																		翌年10月まで続く

ハウス栽培体系、スイカ露地トンネル栽培計画

	H 2 5												H 2 6					
	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月				
ハウス スイカ			○	—————										△				
露地			○	~	○	—————							△	~	△			
トンネル			○	~	○	—————							△	~	△			
青梗菜 1回転							●	—————					△					
							●	—————					△					
							●	—————					△					
							●	—————					△					
寒冷紗							—————											
青梗菜 2回転																		
灌水	—		—				—————										—	



6. 社員・研修生の研修計画

H25,26	研 修 内 容
1 月	生産部総会参加（人事交流） 推進座談会参加（各種資材注文書作成） （スイカ・白ネギ・秋冬野菜） （白ネギ・秋冬野菜・ねばりっこ）
2 月	収支実績分析、品目別収支分析、労働力分析、資金分析、
3 月	指導会参加 （スイカ）
4 月	指導会参加 （スイカ・ねばりっこ・アスパラガス）
5 月	収支実績分析、品目別収支分析、労働力分析、資金分析
6 月	指導会参加 推進座談会参加（各種資材注文書作成） （秋冬野菜・白ネギ） （青梗菜）
7 月	指導会参加 （秋冬野菜・白ネギ・青梗菜）
8 月	人事交流会（独立就農者も含めた意見交換会の開催・懇親会）、 収支実績分析、 品目別収支分析、労働力分析、資金分析
9 月	指導会参加 （秋冬野菜・白ネギ・青梗菜）
1 0 月	先進地視察 指導会参加 推進座談会参加（各種資材注文書作成） （優良農家） （秋冬野菜・白ネギ） （スイカ）
1 1 月	収支実績分析、品目別収支分析、次年度収支・労働力・資金計画策定
1 2 月	人事交流会（独立就農者も含めた意見交換会の開催・懇親会）

7. 年次別の取り組み

	H 2 4	H 2 5	H 2 6	役割分担等
ハウスの導入	◎ 18a	◎ 12a		県・市・大黒
寒冷紗	◎ 2 棟	○		県・市・大黒
灌水設備	◎ 18a	○		県・市・大黒
ねばりっこ支柱	○	○		大黒
栽培技術力の向上	○	○	○	普及所・大黒・JA
経営力の養成	○	○	○	普及所・大黒・JA
研修生の育成	○	○	○	県・市・大黒
契約栽培の取り組み	○	○	○	全農・JA・大黒
ねばりっこ掘取り機	○ 2 台購入済み			大黒

9. 支援事業の内容

(1) 平成24年度

(単位：円)

項 目	事業量 (a)	事業費	負担割合		
			県	市	大黒
ハウスの設置	18(5棟)	13,491,440	6,745,720	2,248,574	4,497,146
寒冷紗の導入	9.7(2棟)	225,560	112,780	37,593	75,187
灌水設備	18	619,048	309,524	103,175	206,349
合 計	18	14,336,048	7,168,024	2,389,342	4,778,682

(2) 平成25年度

(単位：円)

項 目	事業量 (a)	事業費	負担割合		
			県	市	大黒
ハウスの設置	12(5棟)	9,455,000	4,727,500	1,575,834	3,151,666
合 計	12	9,455,000	4,727,500	1,575,834	3,151,666